代議員の発言

声を出せば少しずつでも変わる

加藤代議員（青年部／保健所支部）

青年部要求書の提出と交渉では、青年の実態や要求をもとに、常任委員会で議論を重ね10年ぶりに要求書の提出ができ、交渉も行い青年部にとって大きな一歩になった。

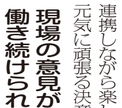
また今年の大会ではワークショップ形式を取り入れ、本部の協力も得てシミュレーションし臨んだ。

その結果、多くの青年が参加をし、新採職員の加入につなげる事ができた。不満があっても我慢している青年はたくさんいるのではないか？

声を出せば少しずつでも変わることを感じてほしいし、労働組合の一番大切な役割だと思う。

今年度も青年部は本部と連携しながら楽しく学び、元気に頑張る決意だ。

現場の意見が尊重され働き続けられる職場へ



池田代議員（国際がんセンター支部）

病院の採算重視の経営方針のもと、収益確保のため、ベッドの稼働率を上げ、患者の在院日数短縮、診療報酬の点数が取れる指導を増やしている。退院までの短期間での業務量が増え、以前より忙しくなったことで看護師に行ったアンケートからは、人員が少ない、休暇が取りにくいなどの意見が多くみられた。

「スタッフ増やしてキャンペーン」では、恒常的残業が深刻化している栄養科と患者相談支援センターを重点部署として、モニタリング調査を行った。

「ワークショップ」で学んだように、みんなで意見を出し合い、スタッフ一人ひとりが自分たちの働き方を考え、声を出せるようにしたい。現場の意見が尊重され、働き続けることのできる職場環境づくりを目指し、仲間を増やしたい。

災害時に十分な体制とれる職員が必要

小西代議員（総務農林支部）

泉州農と緑の総合事務所では台風で、ため池や水路が決壊しそうになったり、農家のビニールハウスは甚大な被害が出た。職員は、交通途絶になっても、他の交通機関を利用し職場にたどり着き、すぐに公用車で出動し現場の確認に回った。振替輸送がないもとでの出勤に対し、納得のできる基準や他の交通機関利用の交通費が出ないことやモチベーションが低下することの声が出た。また、災害配備で継続した勤務体制と水防体制が取られていたため、勤務の継続が続き、職員数が少ないもとでの職員の疲弊状態は著しいものだった。災害時の体制がとれるような職員体制が必要であることを支部として要求していく。

4人の青年が新たに仲間に

峰松代議員（教委支部）

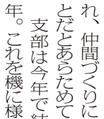
本庁では、組合員を中々増やせず人員削減の影響で忙しくて、対話の時間確保が難しい。そんな中、他の支部と合同で毎月実施の大手前ランチタイム集会に職場の未加入者を粘り強く誘ってきた結果、ここ1年で4名の青年を新たに迎えられた。取り組みに参加し話を聞いてもらうことで、内容を理解してもらえ、仲間づくりにつながることに確信が持てた。現在も、別の職場の未加入の青年も参加しているので、早く仲間に迎え入れたい。

先に加入した4人の青年が、職場活動推進委員会に参加し職場を少しでも良くするための取り組みを学んでるので、一緒に実践していきたい。

また図書館では、当局からの情報を職場ルートよりも素早く職場に伝えることで、組合加入につながった事例も生まれ、仲間づくりに重要なことだとあらためて感じた。

支部は今年で結成60周年。これを機に様々な取り組みへ積極的に参加し、職場の皆さんと一緒に仲間づくりを進めたい。

人員不足の早期解消を



香西代議員（保健所支部）

保健所では世代交代が進み中堅職員が不足。若手・女性が多い職場のため、産育休の職員が常に存在する。しかし、専門職の代替職員が見つからず、安心して休めず、残った職員に負担がかかる状況。中核市移行は大部分が保健所業務。保健所は地域住民の健康や生活衛生等の公衆衛生を担っており、表面上は見えにくい地道な活動が主な業務で、たった数年で引き継ぐのは困難。この間の人員削減や、中堅職員の退職等で府の人材育成がままならない中での移管業務で職員に大変な負担がかかり、通常業務も限界状態。災害時は、保健所は対策本部になるが、通常業務が限界状態の中、非常時の対応ができるのか不安がある。こんな過酷な業務の中「保健師業務はわからないから」と言う管理者から一方的に評価され、生涯賃金を左右する評価制度と賃金リンクは早急に廃止を希望する。

やる気奪う人事評価制度

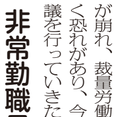
山本代議員（環農水研労組）

研究職の人事評価に3つの「ノルマ」が導入。いずれかを3年間非達成なら、第5区分となる。全国一厳しく、職員のやる気を引き出せないもの。公設試験研究機関の役割は、食と環境の安全を守り、府民・行政・研究所等のタイアップがあって初めて可能なのに、後景に追いやられている。

当局は「労使協議事項でない」との姿勢。何とか打ち砕く闘いを行いたい。

8月試行、4月本格実施でフレックスタイム制の一部導入提案がある。総労働時間が所定労働時間（7時間45分×労働日）を超えれば超過勤務となる。これは長時間労働の隠れ蓑になる恐れがある一方、職場は通勤不便地で要望が強い。当局アンケートで「勤務時間把握が困難」「システムがフレックスタイムに対応していない」等の意見があった。「勤務時間」の概念が崩れ、裁量労働制に近づく恐れがあり、今後労使協議を行っていきたい。

非常勤職員の待遇改善を

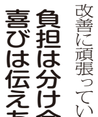


遠山代議員（急性期センター支部）

府立5病院は、あらゆる場面で「病院経営」を理由に人権費抑制などコストカットを強行し、事務職の委託や非常勤職員雇用を拡大している。非常勤職員は5病院で1100人も働いており、国家資格や特殊な技術を持つ職員も多く正職員と同じ仕事をしているのに、ボーナスも昇給もない。

昨年9月の非常勤職員の無期転換の新ルール提案の際、数回に分け説明会を開き、今までどこにも賃金や待遇の不満を言えなかったが、組合に入って待遇改善要求をしたいと、現在までに計8人の看護助手・病棟婦さんを含む非常勤職員の組合加入があった。府職労の仲間づくりの一環のワークショップにも参加している。今後も、全職員の待遇改善に頑張っていきたい。

負担は分け合い、喜びは伝えあって



草野代議員（女性部／保健所支部）

現在の女性部は、経験豊富な先輩方が退職などでいなくなり、経験の浅い若手の子育て世代も多くいて、夜間・休日の活動が難しくなっている。そんな中で、女性部定期大会、女性部独自要求書提出と団体交渉、女性労働学校、パパママ相談会を実施し、機関紙「かなりあ」を発行してきた。

これまで女性部春闘討論集会の開催についても、今年からは本部春闘討論集会に参加することに。積み上げてきた活動を止めることには迷いもあったが、負担は分け合い、楽しみや喜びは伝えあって女性部独自の活動はこれからも充実させ大事に取り組んでいきたい。

仲良く働ける職場に戻したい

石津代議員（府税支部）

2人職場なので、病気など急な休みで代替の非常勤の方も対応できない場合がある。そんな時一人勤務となり対応が困難な場合が多い。

過日、政府省庁が法律を守らず、健常者に水増ししていたとの報道が水増しで、緊張状態が続き休憩も取れないことが多く体の負担が大きく、患者の安全を守るのが不安。残業も多くゆっくり休めない。人員を増やしてほしい。

手術室は、緊急手術対応手当のないオンコール体制で呼び出された翌日は、通常勤務や出先で連絡を受けタクシーで来ても、帰りに公共交通機関がある場合は自腹となる問題が出された。

先の台風21号の強風で、砂利石が当たり車70数台のガラスが破損する被害があった。安全衛生委員会でも、被害の全貌や対策等議題にないものが、以前より組合から整備要求を訴えてきたことで、31年度からの整備が実現した。組合があるから声をまとめ要求として粘り強く訴え続けることで実現することに確信がもてた。

夜勤2名体制を3名体制に

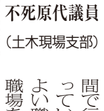
有井代議員（はびきの医療センター支部）

肺腫瘍内科、消化器内科、乳腺外科の混合病棟で、皮膚科、呼吸器科、感染症内科の入院もある。スタッフは常勤21名、夜勤専従の非常勤2名の23名。高齢者や認知症患者の検査搬送、各測定、処置、面談など多重業務に加え、新人教育、学生指導に係の仕事、休日や時間外の勉強会もある。深夜業務は2人で、緊張状態が続き休憩も取れないことが多く体の負担が大きく、患者の安全を守るのが不安。残業も多くゆっくり休めない。人員を増やしてほしい。

手術室は、緊急手術対応し手当のないオンコール体制で呼び出された翌日は、通常勤務や出先で連絡を受けタクシーで来ても、帰りに公共交通機関がある場合は自腹となる問題が出された。

先の台風21号の強風で、砂利石が当たり車70数台のガラスが破損する被害があった。安全衛生委員会でも、被害の全貌や対策等議題にないものが、以前より組合から整備要求を訴えてきたことで、31年度からの整備が実現した。組合があるから声をまとめ要求として粘り強く訴え続けることで実現することに確信がもてた。

災害時も府民の命と暮らし守れる体制を



不死原代議員（土木現場支部）

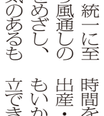
今年は、大阪北部地震や西日本豪雨災害、台風21号などの天災が相次いで発生し、各土木事務所を始めとする都市整備部の各職場では、緊急配備体制にて業務を行ったが、地震発生時の初動体制や長期化する災害業務に対する職場体制など、様々な問題点が露呈している。

特に、この間支部の最重要要求である人員増に関しては、職場や職員の疲弊した状況を見聞きするにつけ、痛感させられた。

今年のように災害が連続して発生し疲弊した状況において頑張れるのは、府民の命と暮らしを守るという、公務員としての使命感によって支えられている。

職員が本当に府民一人ひとりのために事ができる状況を失わないよう、支部としても職場環境改善に向け、これからも頑張っていく。

職場活動推進委員会で学んだこと生かす



田中代議員（精神医療センター支部）

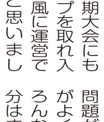
今年度から職場活動推進委員会や青年部常任委員会の活動に参加して大切と感じたことが3つ。

①課題を考える際、一部の要望ではなく、職場全体で何が問題かを考えること。権限をもつ人に対抗するには数の力が必要②キーパーソンを見つけ、参加してもらうこと。まずはお昼ご飯を一緒に帰りながら雑談や、一緒に帰りながら雑談レベルで問題意識を芽生えさせ、徐々に仲間にすることが大切③段階的に行動に移していくことの大切さ。

今組合に加入している私たちが各職場で職場環境の改善に取り組み、存在感を示すことが必要であること。

組合加入者を増やし、当り前のことを当たり前に発言できる職場をつくるため、まずは小さいことから職場活動推進委員会で学んだことを生かし環境の改善に取り組んでいきたい。

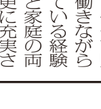
不満や悩み共有し、働き続けられる職場を



茂内代議員（書記局支部）

書記になり12年目。この間結婚、2人の子どもを出産、4月に育児休暇を終えて職場復帰。子どもの事で休むたび心苦しくなったが、組合がみんなで声をあげ、積み上げてきた制度が本当に有難いと実感。誰もが安心して働き続けられる職場のために声を上げる事の大切さを身をもって感じている。

みんなで協力しよりよい職場を



藤田代議員（健康福祉支部）

以前は職場活動が滞っていたが、他職場の職場集会に参加するようになり、支部行事にも3家族が参加した。

今年3月、精神科措置入院退院支援の新規事業を入も予算もつけず行う動きがあり、保健所支部との合同申し入れを行った。参加した組合員は、組合の大切さを改めて感じたと言っている。

年度途中の退職も、支部緊急要求で交渉し欠員補充された。先日、分会単独で職場集会を行い業務量や職場環境の改善の意見が出されたので、分会でも要求が出せたらと思っている。

別の組合員は、本部の職場活動推進委員会に参加し、お互いに繋がり合わなかったことを学び、他の職員と協力して職場の忘年会をし、お互いに話をする機会が増えたと話している。

みんなで協力して、よりよい職場を作っていけたらと思う。

（代議員発言4面へつづく）

大会に参加して

参加者の感想

まわりの組合員にもっと知らせたい！

●このような大会に来ると、いろんな職場があり おのおのの部署でみんなが頑張っておられるということが知れてありがたい。もっとまわりの組合員にも知らせていきたい。●各職場からの発言、グループワークなど、とても勉強になりました。●今年からのやり方はとても良いと思う。話がわかりやすく、そうだー そうだー と聞き入ってしまった。なかなか大会でないと身近に聞く機会がなく、情勢・問題点がよく整理できた。パワポのこの1年間の取り組みもわかりやすかった。充実した大会だと思う。

マンネリを抜け出した楽しい大会

●楽しい大会でした。マンネリを抜け出して交流ができる大会というねらいはあたりです。あと何回参加できるかわかりませんが、来年の大会も楽しませてくれるかなぁと期待してます！会計の説明あってよかったです。●新しい試みいいですね。今までの堅苦しい大会と違って雰囲気いいですね。参加しやすいです。●初参加でしたが参加しやすい大会でした。大会はたくさんの組合員の方と交流できるので、組合員の少ない職場の私にとってはすごく新鮮でした。●若い組合員の人には、府職労の組織の形が良く理解できる内容だったと思います。とくに会計の説明は組合費の流れがよくわかったと思います。

楽しくて帰りたくならない大会に！

●初めての参加でしたがしっかりした内容とグループワークで良かった。●楽しかった。初めてワークショップに参加し、いろいろな人の職場実態が聞けて良かった。

●楽しい交流でした。パワーポイントを使ってですね。こういった取り組み、大切だと思います。いろんな職場の方との出会いいいものです。●みんなと話ができ、すごく良かった。以前は勝手に来て勝手に帰っていた。●2年前に参加した時より楽しかったです。同世代の若手職員と意見交換ができ、また、パワーポイントやムービーでの取り組み説明もわかりやすかった。一日の取り組みでしたがまったく疲れなかった。●新しい形の大会、視覚にも訴えて経過も方針もわかりやすかったです。ワークショップでは久しぶりに討論した気がします。職場での実践を頑張ります。●楽しい定期大会でした。パワーポイントを使って、コンパクトにまとめての報告でよくわかりました。とくに会計報告、会計のしくみがよくわかりました。定期大会にもワークショップを取れ入れて、こんな風に運営できるんだ！と思いました。●楽しかったです。

取り組みへの要望など

他病院の仲間と交流したい！

●他の病院の看護助手さんの実態を知りたい。交流があれば参加したいと思います。●参加型の取り組みは参加したいという実感がもてるので今後も取り入れてほしい。●ワークショップ、グループワークで問題点を細かくあげ、解決するための方法を見つけるやり方を今後も企画してほしい。●ボウリングなど仕事終わりに若い人を誘いやすいイベントが増えてくれたらうれしいです。●お絵描きおもしろかったです。またやりたいです。どこかで導入してほしい。

組合員が増えるように頑張りたい

●職場での組合員の数が少ないので少しでも増えるように頑張っていきたいと思いました。●ワークショップ気に入ってます。何とか他の組合員も参加できるものにしたいんですが…。●入庁後、エクセルやワードは必要だが、じっくりと学習する機会がない。職場環境の改善や要求も大切だが、職員として必要なスキルを得られる取り組みができるとうれしい。●まず今ある活動にもっと参加しなければと思いました。そのうえで職場の方を誘っていきたい。

普段会うことのない部署の方とたくさんお話ができて、良かったです。保健所だけでなく共通した問題がたくさんあることがよくわかりました。いろんな活動がある中、自分はまだまだ参加できてないと思います。

委員長あいさつ

全員参加の運動を大きく前進させよう

執行委員長　有田　洋明

安倍政権は、「モリカケ問題」には一切触れず、まともな国会審議もなく、次々と数の力で強行採決させています。いまこそ、9条改憲や消費税10%増税、「辺野古」埋め立て米軍基地建設強行、社会保障大改悪など、市民と野党の共同で悪政ストップさせることが求められています。

2025年大阪万博の開催が決定し、夢洲にカジノIRと巨大インフラ整備と一体ですすめようとしています。「コンパクト五輪」と言われた東京オリンピックは、当初見込み7千億円から現在3兆円超と膨れ上がっています。大阪万博の想定入場者2800万人（半年開催）と見込んでいますが、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（年間1460万人、東京ディズニーランド（年間3010万人）と比べても、ずさんな計画と言わざるを得ません。会場となる「夢洲」での開催は、巨額の税金を投入するだけでなく、災害時に府民や利用者の安心・安全を守る点からも極めて問題です。今こそ、カジノ万博、巨大開発に税金を使うのではなく、福祉・医療などくらし関連予算を優先させることが安倍政権の「防波堤」として、大阪府の果たすべき役割ではないでしょうか。

戦前の公務員が国民を戦争に駆り立てた反省から、「全体の奉仕者」として憲法を守る義務を課しました。住民福祉を守る最前線にいる府職員・府関係職員として、憲法で保障する国民の権利を現実のものにするため、憲法の実践者として全力をあげましょう。組合活動の基本は「組合員が主人公」です。一部の役員だけで行うものではなく、組合員一人ひとりが力をあわせ、全員参加の運動を大きく前進させましょう。

本大会では、皆さんがリラックスした雰囲気のなかで、「職場や仕事のこと」「賃金・労働条件のこと」「大阪府政のこと」「世の中や政治のこと」など、みんなで楽しく話しあえる場にしたいと思っています。歴史的な大会になるよう皆さんの積極的な討論お願いし、本部執行委員会を代表してのあいさつとします。

大会役員のみなさんご苦労さまでした

大会議長　松本代議員（国際がんセンター支部）

大会議長　中森代議員（土木現場支部）

大会運営委員長　谷代議員（土建支部）

府市統合後も異なる勤務労働条件

渡辺代議員（産技研労組）

2017年4月に旧大阪府立産業技術総合研究所（産技研）と旧大阪市立工業研究所（市工研）は統合され新法人、大阪産業技術研究所となった。産技研は和泉センターとなり、法人統合前と同様に中小企業の支援を行っている。もともと産技研は大阪府下の中小企業の技術支援を目的として設立され、現在も、中小企業の技術支援を通じて、大阪府民の福祉向上に努めている。

現在も、和泉センターと森之宮センターでは、就業規則が異なり、研究員については給料表等が統一されていない。昨年度も勤務労働条件の統一に向けた協議が法人当局と労働組合との間で行われたが、統一に至っていない。より風通しのよい職場の実現をめざし、職場を今より活気のあるものにしていきたい。